

教科等研究会（小学校道德部会）

平成30年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

自己を見つめ、自己の生き方についての考え方を深めるための、
多様な指導方法の工夫。

2 研究経過

第1回			第2回		
6/4	御船小学校	研究テーマ検討他	10/1	益城町立広安西小学校	赤星 静香教諭
第3回			第4回		
11/22	益城町立飯野小学校	清原 琢史教諭	2/8	御船町立御船小学校	研究発表会参加

3 研究の概要

(1) 研究の内容

小学校新学習指導要領における道德科の目標から、児童一人一人が道德的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、道德性を養っていきけるような道德科の指導を工夫することが重要だと捉えた。また、児童が道德的価値についての理解を深め、よりよく生きようとする気持ちを高めることが、「分かる」「楽しい」道德の授業につながると考えた。

◎「分かる」道德の授業とは・・・

価値理解、人間理解、他者理解、自己理解を深める授業

＝道德的価値を理解し、自分の生き方についての考えを深める授業

※①ねらいとする道德的価値が大切であることが分かる（価値理解）

②大切ではあるが道德的価値に根ざした行為は容易ではないことが分かる（人間理解）

③道德的価値にかかわる見方・考え方は人によって様々であることが分かる（他者理解）

◎「楽しい」道德の授業とは・・・

子どもが、「考えたい、聞きたい、話したい」と思える授業

＝道德的価値を、自分とのかかわりで考える授業

本研究では、学習指導要領解説特別の教科 道德編に示された指導方法の工夫の中からねらいや児童の実態、資料や学習過程に応じて、最も適切な指導方法を選択して指導案に明記し、授業の中で工夫し生かすようにした。

◇道德の時間に生かす7つの指導方法の工夫

- ① 資料提示；教師による読み聞かせ（紙芝居、ペープサート等）、ビデオ映像等
- ② 発問；児童の意識の流れに沿った発問、考える必然性や切実感のある発問等
- ③ 話し合い；意図的指名、座席配置の工夫、ペアやグループ討議などの工夫等
- ④ 書く活動；吹き出しを付けたワークシートの工夫等
- ⑤ 表現活動；役割演技、動作化等
- ⑥ 板書；順接的な板書、構造的な板書、意見の違いを類型化した板書等
- ⑦ 説話；日常の話題や学級の出来事を生かした内容等

(2) 成果と課題

【成果】

- 事前研で資料分析及び発問の工夫等について協議を重ね、会員による先行授業を実施し、授業の流れや児童の反応について情報交換を行いながら指導案を練り上げることができた。
- 導入では、子どもたちの身近な写真や、事前アンケート等を用いることで、価値の方向付けや課題意識を明確にもたせることができた。
- 中心発問では、主人公の心の変容の理由や、変容した心を探る等、道德的価値に迫る発問

を工夫した。話し合いでは、自分の考えと友達のかえの違を意識した意見の交流や、教師が意見を深めるための補助発問を工夫することで、議論し、かえを深めることができた。

- 参観者からは、教師が児童の意見をとり上げ、皆に共有させていくなど、対話を大切にしたい授業であり、参考になったとの意見があった。また、資料理解のための教具の視覚的な工夫・支援があった。参観者にとって多くの学びがあった。

【課題】

- 児童が中心発問で気づいたことを、学級全体で共有化し、自分事としてかえていくために、児童の思考を繋ぎ、焦点化するための教師の発問や補助発問の工夫のあり方について。また、対話による深い学びとなるための、教師の児童の発言のとり上げ方や意見を分類、比較するための板書の工夫等、今後も研究していく必要がある。

3 実践事例

(1) 授業の概要

主題名 みんなの使う物（規則の尊重 C-11）

資料名 『黄色いかさ』 出典「新しい道徳3年」（東京書籍）

指導者 教諭 清原 琢史

本授業では、以下のような指導の工夫（展開の工夫）を行った。

- ・導入では、児童の身近な公共物の写真を活用し、みんなのものの使い方について課題意識を明確に持てるよう工夫する。
- ・挿絵やキーワードを短冊で提示し、児童が登場人物の行動や心の動きを十分理解できるように板書・教具を工夫する。
- ・発問は精選し、児童の感想を活かしながら授業を組み立てる。道徳的価値に迫るような中心発問を工夫し、価値を高めるための補助発問等も用意しておく。
- ・展開前段を中心発問で終わるのではなく、張り紙を張った人の思いが込められた「見えないルール」という発問を入れることで道徳的価値をより高めるようにする。
- ・終末では、子どもたちの身の回りにあるものを例として紹介することで、これからの生活の中で実践していこうとする気持ちを高められるようにする。

(2) 学習指導案

第3学年1組 道徳学習指導案

平成30年11月22日（木） 第5校時

場所 3年教室

指導者 教諭 清原 琢史

- 1 主題名 みんなの使う物（規則の尊重 C 主として集団や社会との関わりに関すること）

資料名 『黄色いかさ』 出典「新しい道徳3年」（東京書籍）

- 2 主題について

- (1) 主題設定の理由

第3学年及び第4学年「C-11 規則の尊重」は、「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」をねらいとしている。生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関する内容項目である。

中学年の段階においては、自分のものには関心があり大切に使用しようとするが、公共のものや施設などについては、その使い方が自分勝手であったり、大切にしなければいけないという気持ちはあるが、実践できていなかったりすることが多い。また、身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共のものや施設などとの関わりについて考えることは少ない。

したがって、社会の中で集団生活をする上で、公德を守り、公共のものを大切にする気持ちを十分に持ち、実践化していくことが必要であると考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態

本学級は、男子15名、女子11名、計26名である。事前アンケートの結果は、以下の通りである。

- ① いろいろな約束やきまりを守ることは、大事だと思いますか。
大事だと思う…22名　まあまあ大事だと思う…3名　大事だと思わない…1名
- ② あなたは約束やきまりを守れなかったことがありますか。
ある…25名　ない…1名
- ・ろうかを走った。
 - ・すべり台のすべるところに足で乗った。
 - ・「すわってご利用ください」と書いてあったトイレで立ってした。
 - ・登ってはいけない木に登った。
 - ・遊びに行って、家に帰る時間を守れなかった。
- ③ いろいろな人がいっしょに使ったり、交たいで使ったりするものを大事に使うことは必要だと思いますか。
必要だと思う…24名　まあまあ必要だと思う…2名
- ④ あなたは、いろいろな人がいっしょに使ったり、交たいで使ったりするものを大事に使えていますか。
使えている…21名　使えていない…5名
- ・トイレのスリッパをならべていなかった。
 - ・ほうきを出しっぱなしにしていたことがある。
 - ・学校のつくえに落書きをしたことがある。

アンケートの結果から、「約束やきまりを守ること」について、ほとんどの児童が「大事だ」「まあまあ大事だ」と考えていることが分かる。しかし、「約束やきまりを守れなかったことがあるか」という質問に対しては26名中25名が「守れなかったことがある」と答えている。本学級の児童は、約束やきまりを守ることを大事にしたいという気持ちはあるが、実践することができていない。また、「約束やきまりを守ることは、大事ではない」と答えた児童も1名いた。約束やきまりを守ることは、個人や集団の安心安全な生活のためであることなど、なぜ守るべきものなのか、その意義について考えることも必要である。

公共のものや施設については、全員が「大事に使うべき」と考えている。それを実践できているかという質問に対しても、ほとんどが「できている」と答えている。しかし、一部の児童に関しては、トイレのスリッパを並べられていなかったり、みんなが使う掃除道具やボールを乱雑に使ったり、手洗い場がきれいに使えていなかったりなどの実態も見られる。公共のものや施設と自分の生活との関わりをもう一度考え、公共のものや施設に対する認識を改め、自分の行動を見つめなおしていく必要がある。

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

主人公の大助の気持ちや傘立ての張り紙について考えたり話し合ったりすることを通して、きまりを守ることの意義を理解し、みんなが使う物を大切に使い、まわりの人に迷惑をかけないようにしようとする態度を養う。

(2) 展開

過程時間	学習活動	主な発問・指示 (●) 予想される児童の反応 (○)	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 身の回りにある公共のものや施設について話し合う。	●みんながいっしょに使うものには、どんなものがありますか。 ○トイレ ○遊具 ○図書室や教室の本 ○かしだし用のかさ ●みんなが使うものにもやくそくやきまりがあるのでしょうか。	・子どもたちから出されるであろう公共のものや公共施設の写真を準備しておく。 写真は大切に使われている場合と大切に使われていない場合の両方の写真を貼り付けるようにする。	写真
「みんなが使うもの」のやくそくや決まりについて考えよ				
展開 35分	2 資料「黄色いかさ」を読んで、話し合う。 	●どうして大助は、かりたかさを返さなかったのだろうか。 ○めんどうだったから。 ○返すのをすっかり忘れていたから。 ○自分ひとりくらい返さなくてもいいだろうと思っていたから。 ●おばあさんの話を聞いて走り出した大助は、どんなことを考えていたでしょうか。 ○おばあさんに「ごめんなさい」とあやまりたい気持ち。 ○自分がかさを返さなかったから、おばあさんを困らせたしまった。 ○早く返しておけばよかった。どうして返しておかなかったんだろう。 ○どうして誰も返してないんだ。みんな自分勝手だ。	・みんなで使う物を自分の都合で使い、大切にできていなかったことに気づいた大助の気持ちを考えることで、本時のねらいに迫ることができるようにする。	短冊 挿絵
	3 傘立ての張り紙『雨がふったときには、どうぞお使いください。』に隠されたメッセージを考える。 4 自分のことを見つめなおし、これからどうしたいかを考える。	●傘立てには、『返してください』と書いていないから、返さなくてもいいのではないですか。 ○きまりは書いてないけれど、誰もこまらないうにするには、みんなが返さないといけない。 ○返さないと、おばあちゃんみたいに困る人がいるから。 ●この張り紙に込められた思いは何でしょうか。 ○「みんなが使う物だから、大事に使ってください。」 ○「使い終わったら、次に使いたい人のために返してください。」 ●みなさんはこの思い（見えないきまり）に気付くことができていましたか。今日学んだことは何ですか。	・「傘を返さなければいけない」というきまりが明記されていなかったから返さなくてもよいのではないかという問いで揺さぶる補助発問をする。「目には見えないきまり」に気付けるようにする。 ・張り紙には、「みんなが使う物を大切に使ってほしい」という思いがあることに気づき、自分自身の公共のものや施設の使い方につなげることができるようにする。 ・今までの自分の行動をふり返り、自分は公共のものや施設を大切に使用していたか見つめなおす時間をとる。	張り紙 拡大 ワークシート
終末 5分	5 まとめをする。	●みなさんの身の回りの「みんなが使うもの」にもある、目には見えない約束やきまり。それに気付いて守れるといいですね。	・身の回りのいろいろな公共のものや施設にある張り紙（メッセージ）を紹介して、生活の中で実践していこうとする気持ちを高められるようにする。	張り紙 拡大
【評価】大助の気持ちや傘立ての張り紙に込められた思いについて考えることを通して、きまりを守ることの大切さを理解し、公共のものや施設を大切に使用しなければならないことの意味を考えることができたか。（発言、ワークシート）				